

# 防災教育の今は…？

公益社団法人 日本河川協会

## 系統的、組織的な取り組みを急ぐように指摘されています



今までも防災教育の重要性は繰り返し指摘されてきました。実際、各地で数多くの取り組みが行われてきました。東日本大震災以降、さらにその重要性が認識され、取り組みの一層の促進が求められています。

子供たちを対象とした防災教育の「場」には様々なものがあると思います。例えば、NPOの方々が指導して、水の深さや流れの速さが避難の時にどう影響するか、子供たちが川の中を歩いて体感するといった体験型のものもありますし、専門家による出前講座のような知識を習得するタイプのものもあります。

しかし、体験型にせよ、出前講座にせよ、学校が中心になって系統的、組織的な取り組みを行うことが重要なように思えます。

東日本大震災後の平成24年4月に「**学校安全の推進に関する計画**」が閣議決定されました。この中でも、系統的、組織的な取り組みを急ぐ必要があることが指摘されています。この「計画」の「Ⅱ学校安全を推進するための方策」の中の「1. 安全に関する教育の充実方策」の「(3) 安全教育に係る時間の確保」には、

○国は、学校における安全に関する指導が系統的・体系的になされるよう、学校現場で実際に行われている安全教育の効果を検証するとともに、各教科等における安全に関する指導内容を整理し、学校現場に対して分かりやすく示す。

と記述されていますし、「3. 学校における安全に関する組織的取組の推進」という項も設けられています。

また、平成24年7月に有識者会議がとりまとめた「**東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議 最終報告**」には、「3. 東日本大震災の教訓を踏まえた防災教育・防災管理等の展開」の項で、「(1) 防災教育」として「①防災教育の指導時間の確保と系統的・体系的な整理」が掲げられており、具体的には、

○また、指導時間を確保し、指導を充実するため、国は、防災教育の系統的・体系的な指導内容を整理し、学校現場に対して分かりやすく示すなどの取組を推進していく必要がある。併せて、国及び学校の設置者において、学校現場における防災教育の実施状況を把握し、指導時間の確保に対する具体的事例や課題等を踏まえて必要な方策を検討することが求められる。

といった記述がなされています。

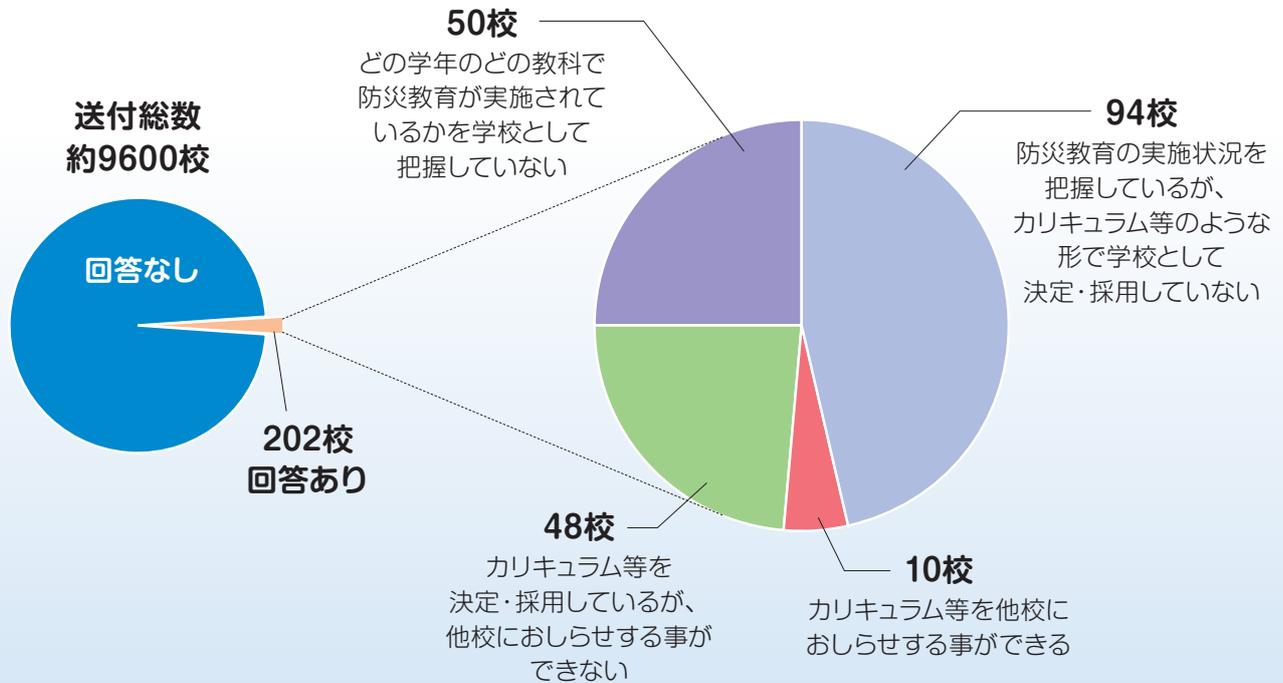
文面からは系統的、組織的な取り組みが未だ不十分であり、今後、その推進を急ぐ必要があることが読み取れます。

## 全国の中学校に基礎的なアンケートを行いました

公益社団法人 日本河川協会でも同じような問題意識を抱いていました。そこで、平成25年8月末から9月末にかけて全国の中学校約9600校に対して基礎的なアンケート調査を行いました。その結果は以下のとおりです。

(詳しくは日本河川協会のホームページを御覧ください)

### 防災教育アンケート集計



各学校の先生方は大変お忙しく、回答率は2.1%にとどまりましたが、系統的、組織的な防災教育の取り組みが中々進んでいないことがわかります。

アンケート回答の自由記述欄には、

「防災カリキュラムの見本が欲しい」

「教育指導計画の中の防火防災計画で理科・社会でも学習する学年が決まっているが、包括的なカリキュラムがあれば参考にしたい」

といった記載もありました。

そこで、自校のカリキュラムを他校にお知らせできると回答いただいた10校のうちから、パンフレット「自分の命を自分で守るために」でふれられていない火山噴火を対象とした防災教育を行っておられる事例についてご紹介させていただきたいと思います。

## 桜島の噴火を対象とした防災教育活動計画をご紹介します

鹿児島市立黒神中学校では、職員研修も含め、外部講師による講演やDVD視聴、避難訓練など年間を通じた活動計画を立てて防災教育を実施してまいります。

以下は、その計画表です。

番号	期 日	活 動	内 容	備 考
1	4/8(月)	職員研修 (防災教育について)	(1) 防災教育の全体計画 (2) 防災教育年間指導計画 (3) 消防計画 (4) 桜島爆発時緊急避難計画 (5) 防災教育活動計画	・「黒神中の教育」
2	4/25(木)	避難訓練 (地震に伴う二次災害として火災発生を想定)	(1) 避難訓練 ①地震に伴う二次災害として火災発生 ②避難行動	・桜島東分遣隊
3	5/15(水)	桜島のジオを学ぶ学習 (事前学習)	(1) 桜島・錦江湾ジオパーク構想について (2) 桜島の魅力(地形・地質・自然等) (3) 火山活動によってできた錦江湾	・鹿児島大学 名誉教授 大木 公彦 先生 (桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会会員)
4	5/27(月)	第1回 防災教室 (防災施設探検ツアー) (100周年寺子屋事業 午後)	(1) 京大火山活動研究センター施設見学 (2) ハルタ山観測坑道見学 (3) 黒神観測所見学	・京都大学 教授 井口 正人 先生 (京都大学防災研究所付属 火山活動研究センター長)
5	6/26(水)	第2回 防災教室 (砂防教室～桜島国際火山砂防センター)	(1) 桜島の地形や砂防の話など砂防事業の役割について (2) 砂防ダム等見学	・国土交通省(大隅河川国道事務所)
6	7/7(日) 日曜参観	第3回 防災教室	〈講話〉 ・「桜島噴火の歴史と住民の生活」	・鹿児島純心女子短期大学 非常勤講師 橋村 健一 先生 著書「桜島大噴火」
7	7/26(金)	火山の空気振動(空振)に関する国際ワークショップ	※研究者や火山学を専攻している学生との交流 ・火山の空気振動(空振)に関する計測等(黒神校区公民館にて)	東京大学地震研究所 助教 市原 美恵 先生 京都大学火山センター 助教 横尾 亮彦 先生
8	8/1(木)	職員研修 (防災教育について)	(1) 学校防災研修会報告 (2) 校区退避壕・退避舎マップの確認 (3) 命を守る避難の3原則DVD事前視聴	・黒神校区退避壕・退避舎マップ ・防災教育第3巻DVD～釜石の奇跡に学ぶ～
9	9/12(木)	第4回 防災教室	〈講話〉 国際火山学地球内部化学協会学術総会(ヤブセイ2013)(7/20～7/24)から「火山活動予測」	・京都大学 教授 井口 正人 先生 火山活動研究センター長(ヤブセイ副委員長)
10	9/26(木)	第5回 防災教室	〈講話〉 「桜島噴火により起こる津波」 ・津波に対する避難行動(東日本大震災から学ぶ)	鹿児島大学地域防災教育研究センター 岩船 昌起 先生
11	10/15(火)	桜島のジオを学ぶ学習 (フィールドワーク)	・桜島の自然・文化(ジオ)めぐり	・鹿児島大学 名誉教授 大木 公彦 先生 (桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会会員)
12	11/22(金)	黒神中・塩屋ヶ元合同緊急避難訓練(爆発を想定)	・島外避難計画に定める漁船による島外避難訓練	・避難港(塩屋ヶ元港) ・ライフジャケット
		第6回 防災教室	(1) 命を守る避難の3原則～釜石の奇跡に学ぶ～ ①DVD視聴 ②ビデオフォーラム (2) 校区防災マップの作成に向けて	・DVD 防災教育 第3巻 監修 群馬大学大学院 教授 片田 敏孝 先生
13	1/9(木)	桜島火山爆発総合防災訓練(大噴火を想定)	・共助、公助による住民避難訓練	・避難港(塩屋ヶ元港) ・ライフジャケット ・避難用カード
		第7回 防災教室	・校区防災マップの作成(パンフレット化して地域に配布)	・校区安全マップ ・地震津波防災啓発リーフレット

## 東日本大震災の前に策定された釜石市の津波防災教育のカリキュラムをご紹介します

釜石市では片田敏孝先生の群馬大学災害社会工学研究室とともに平成22年3月に津波防災教育のための手引きを取りまとめられました。この手引きは地震・津波災害に特化したものですが、系統的に整理されており、他の自然災害に対しても参考になるものと思われます。

以下では、学年別・教育目的別に整理されたカリキュラムの一覧表をご紹介します。

(詳しくは [http://dsel.ce.gunma-u.ac.jp/kamaishi\\_tool/index.html](http://dsel.ce.gunma-u.ac.jp/kamaishi_tool/index.html) を御覧ください)

### ■ 学年別・教育目的一覧表

教育項目		3.1 小学校 1・2年生	3.2 小学校 3・4年生	3.3 小学校 5・6年生	3.4 中学校 1・2・3年生
I. 地震・津波を知る	A.地震・津波のおき方を知る		(5) 学活:1時間	(4) 学活:1時間	(2-1) 理科:1時間
	B.津波の特徴を知る	(2) 体&学:1時間 (3) 算数:15-20分	(6) 学活:1時間		
	C.避難の必要性を知る	(1) 学活:1時間			
	D.津波の様々な特徴を理解する			(1) 学活:1時間 (5) 学活:1時間	
	E.地震の揺れの特徴を理解する				(2-2) 理科:1時間
II. 対処行動を知る	A.地震から身を守る方法を知る		(1) 学活:1時間		
	B.津波からの避難方法を知る		(2-1) 学活:1時間	(6) 学活:1時間	
	C.学校や自宅周辺の避難場所を知る	(4-1) 生活:1時間 (4-2) 生活:1時間	(2-2) 社会:2時間	(2) 総合:5時間	
	D.様々な避難方法を考える		(2-3) 社会:1時間 (2-4) 社会:3時間		
	E.避難後の行動を考える				(3) 学活:2時間 (4) 学活:1時間
	F.避難できない人間の心理を知る				(6) 総or学:1時間
III. 地域の津波被害を考える	A.過去の津波被害を知る		(3-1) 学活:1時間	(7) 総合:1-3時間	
	B.津波から地域を守る対策を知る		(3-2) 学活:1時間	(3) 総合:1時間 (5) 学活:1時間	(5) 社会:1時間
IV. 先人の経験に学ぶ	A.体験者から話を聞く		(4) 学活:1時間		
	B.津波てんでんこ			(6) 学活:1時間	
	C.語り継ぐ責任				(7) 道徳:1時間